



株式会社ウエルビー
代表取締役の青木正人氏

ることで、地域福祉の牽引者として力を発揮していただきたい」とし、「介護の価値を真に理解しているのは、机の上の誰かではなく現場で汗する皆さんしかない。ならば報酬改定も、制度改革も皆さん自身の声で成し遂げなければならぬ。全国老協協は誇りをもって、その思いを支えていく」と締めくくった。

**来るべき社会の姿として
循環スキームを提示**

次に、株式会社ウエルビー代表取締役の青木正人氏が登壇。まず、今回の改革の骨格やそれがもたらす見通しを1時間あまりにわたり、ホールディングカンパニー制や、空き家を利用した地域善隣事業、在宅医療介護連携支援センターの役割といったトピックを通して詳細に解説した。

さらに、自身が考える介護の未来像を「循環スキーム」として提



公立大学法人大阪府立大学
地域保健学域教育福祉学類
教授の関川芳孝氏

示。「これまでであった医療・看護等の専門領域と生活支援サービスに、高齢者の社会参加を加えた3要素を、皆さん生活相談員の手で循環するように回していくのが、来るべき社会の姿である」としたうえで、最後に、「このスキームをつくることで、社会福祉法人の役割は減ることなく、今後大事にされるだろう。皆さんにはそのようななか、従来の技術や市場、つながり、考え方をぜひイノベーションしてほしい」と訴えた。

**社会福祉法人の役割を再確認
私たちの行動が地域を変える**

2日目は、公立大学法人大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類教授の関川芳孝氏が登壇。今回の社会福祉法人改革において、設置が義務づけられることが決まった評議員会をはじめとする社会福祉法人のガバナンス強化に言及し、「ほとんどの社会福祉法人は、事



社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
社会貢献推進室長の梅木誠氏

業継続に必要な財産を除いたら余裕財産など出てこないだろうが、だからといって地域貢献活動をしなくてよいかというと、そんなことはない。社会福祉法人の役割は、民間企業での対応が困難な福祉ニーズに対応していくものなので、ニーズを把握し、プログラム化し、制度にないものについては新たに事業として興していく責務がある」と述べた。

続いて関川氏を聞き手に、社会福祉法人大阪府社会福祉協議会社会貢献推進室室長の梅木誠氏が、大阪府社会福祉協議会と老人施設部会による社会貢献事業の実践例を、テレビの報道番組を使って解説。貧困家庭への生活援助等、支援の実際が紹介された。

最後に、東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科講師の村山くみ氏が登壇。制度の狭間にある地域ニーズを把握するヒントや、そのときに有効な調査手法となる



東北福祉大学総合福祉学部
社会福祉学科講師
村山くみ氏

「ワールドカフェ」方式、地域住民にインタビュを行うときの注意点について解説した。そして、「心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる」という言葉を紹介。「この言葉を業務に当てはめて見ていくことで、私たちの行動が地域を変えることにつながっていくと思う」と述べ、2日間の講義を締めくくった。

